

令和7年12月25日（木曜日）

高校生と姫路市議会との座談会（厚生）

議会会議室

出席議員

重田一政、前川藤枝、中西祥子、竹尾浩司、
八木隆次郎、竹中隆一、萩原唯典、三浦充博、
西村しのぶ

出席高校生

飾磨高等学校 4人、姫路女学院高等学校 3人

開会 9時57分

委員長挨拶 9時57分

出席者紹介 9時58分

意見交換 10時01分

○個別テーマ

・動物愛護の推進

「犬も猫も人も安心して暮らせるように」

（委員長）

現在、社会全体がデジタル化の流れにあり、本市でも様々な事業のデジタル化が進んでいる。一方で総務省の調査によると、スマートフォンの所持率は70代で64.4%、80歳以上で28.5%にとどまっている。

スマートフォンやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者の間に生じる格差、いわゆるデジタル・ディバイド問題への対策は喫緊の課題になっている。

本日は、スマートフォンが身近な存在である高校生と意見交換をしていきたい。

姫路女学院高等学校から資料に基づき、本テーマに関する提案をしたいとの申出を受けているので、説明を受けることとする。

【姫路女学院高等学校が資料に基づき説明】

（委員長）

今の発表について飾磨高校から意見はあるか。

（高校生）

ペットを飼育できなくなる人は生活が苦しい人が多いと思うので、飼い主に寄り添った施策を増やしてほしい。また、ペットを飼育できなくなりそうなとき、匿名で相談できる窓口があればいいのではないか。

（委員長）

先ほどの高校生からの提案について、議員から意見や感想はあるか。

（議員）

犬の散歩についての提案はあったが、猫についてはどうか。

（高校生）

猫は散歩が少ないと思うので考えていない。

（議員）

犬猫の飼育放棄について理由を5つ挙げていたが、本市では動物管理センターで譲渡会を行い、保護犬や保護猫を引き取ってもらう取組を行っている。提案にもあったような仕組みがないと経済的な負担が非常に大きい。

また、理由の中で多頭飼育崩壊を挙げていたが、一定以上の頭数を飼う場合、届出を義務付ける条例を制定している自治体もある。

提案にあったクラウドファンディング型のふるさと納税のような手段で資金を募って不妊手術を行うなど、マナー啓発だけではない取組を本市も行う必要がある。

（議員）

野良犬や野良猫、ペットのしつけなどで困ったことや嫌なことはあるか。

（高校生）

近所の空き家に野良猫が来て、自分の家の庭や周りでふん尿をされて困っている。

（高校生）

動物全般があまり好きではないので、野良猫やリードをつけずに散歩させている犬がいると怖い。

（高校生）

近所に家の庭で犬を飼っている人がいるが、鳴き声などで周囲から苦情が入っている。

（議員）

本市の動物管理センターでは、猫の侵入防止用に超音波を発生させる装置を貸し出しているので参考にしてほしい。

また、私の地域でも以前は野良猫が多くいたが、地域猫活動で次第に減っていった。地域猫活動と聞いて何か知っていることはあるか。

（高校生）

不妊手術の活動をCM等で見た覚えがある。野良猫自体かなり減った印象がある。

（議員）

餌をあげる人がいるところでは増えてしまう。悪気

があつてやるわけではないが、結果的に子猫が増えて悪循環に陥ってしまい、地元の人と関係が悪くなったりしてしまう。行政としてどのように対処するかは難しい問題である。

(議員)

本市では地域猫の不妊手術に対して補助を行っている。そのおかげで地域猫が増えなくなり、あまり見なくなったという意見につながってくるのではないかな。

(議員)

ペットを飼っている高齢者について、入院や施設入所後に残ったペットをどうするかなどの問題もあるが、ペットの購入等に年齢制限を行うことについて何か意見はあるか。

(高校生)

自分の祖父母は、飼っていた犬が亡くなったときに、すごく老けたように感じた。ペットがいることで自分も頑張ろうという気持ちになることもあると思う。高齢者でも飼えるような支援や入院中の預かりサービスがあればよいと思う。

(高校生)

市がペットショップと連携し、一定以上の年齢の人がペットを買う場合、いざというときの引取り先を決めておかないといけない仕組みを設けてはどうかと思う。

(議員)

その場合、何歳を基準にするのがいいと思うか。

(高校生)

60歳など定年退職する年齢ではどうか。

(議員)

私はこの中で一番の年配だが、子どもの頃は野良犬もいたが今ではほとんどいなくなった。昔であれば、犬は番犬として家の外で飼われていたが、ここ5、60年で、室内飼いが当たり前となり、餌として残飯を与えることもあり得なくなっている。野良犬対策が取られたことも理由の一つだと思うが、犬に対する認識が変わったこともあると思う。

犬というものが人間のために飼われ、人間の都合で飼えなくなったであるとか経済的に苦しいとかいうことで殺処分されたりするのは非常に身勝手なことだと思う。

それを助けたいという気持ちはよく分かるが、その

ために税金が使われるのが本当にいいのかどうか疑問を感じている。

提案にもあつた飼い主のモラル問題については、市としても条例改正等により厳格化できないかどうか考えている。

(議員)

猫や犬が、子どもの遊ぶ公園の砂場でふん尿をすることは問題であるが、一方、犬や猫が嫌いな人が悪意を持って動物の身体に悪いものを道にまいているのを目撃したこともある。これまではあまりなかった問題だと思うので、ぜひこういうことも考えてみてほしい。

(委員長)

テーマに関する意見も出尽くしたと思う。議員や議会に対する質問もあれば受けたいと思う。

(高校生)

議員の生活というものがイメージできない。朝は何時ぐらいに起きているのか。

(議員)

議会が開催されるときは、時間が決まっていて動きやすいが、それ以外のときは怠けようと思えば幾らでも怠けることができる。土日を含めて、朝が早いときもあれば深夜まで仕事をしていることもある。議員は人と会って相談を受けることも多く、常に仕事でもある。

(高校生)

なぜ議員になろうと思ったのか。

(議員)

政治に興味はなかったが、昭和、平成から令和になりこれからの時代がどう変わるのか考える中で、目の前のことだけでなく、これからのことを考えて、次の世代のための仕事をしたいと思うようになった。

(議員)

所属政党から話を受けて決意した。「地域のために貢献しなさい」と教えられて育ってきたこともあり、地域から頼まれた仕事に取り組んできた。その延長線で地域のために役に立つことができればと思い、立候補した。

(議員)

私は元市職員で、人のために働けるいい仕事だと思っていたが、もっと大局的にできることがないかと考えた。議員になり障害者の福祉のために全力を挙げて

活動している。

(議員)

元サラリーマンであり、労働組合の一員として職場の働く仲間のために会社と交渉していた。組合が推す先輩が議員を辞めることになり、その後任を頼まれた。

自分の職場だけではなく、本市で働いて頑張っている人の声を代弁する仕事ができればという思いで立候補した。

(委員長)

将来も本市で暮らしたいという人はどれくらいいるのか。

(ほぼ全員が挙手)

(委員長)

今後も本市が好きになってもらえるように、これからも若い人の意見をいろいろな機会伝えてもらえればと思う。

意見交換終了 11時31分

副委員長挨拶 11時32分

閉会 11時33分